

公表 業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援・放課後等デイサービスmico				公表日	令和8年 3月 15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・国の設置基準以上の広さを用意している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・国の設置基準と加配配置を行っている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	・バリアフリー化されている。	・玄関とトイレに手すりを設置する。 ・視覚的に分かりやすい環境を整えルール化していく。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・清掃と消毒を行い衛生面に配慮している。 ・こどもの状況に応じて適切な場所や環境づくりを行い居場所づくりを行っている。	・活動に合わせた環境づくりを今後も行っていく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・ルールを設け、大人の見守りと安全に配慮し使用できている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・ミーティングや会議等で話し合い、改善を図っている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			・会議の中で評価結果を共有し、保護者の意見について話し合いを行い改善に繋げていく。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・会議や打ち合わせで意見を出し合い環境面や支援内容について改善を図っている。	・話しやすい環境づくりを今後も行っていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・今後、検討する。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・外部研修や内部研修では講師を呼び、資質の向上に努めている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・支援プログラムを作成しHPに公表している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・保護者に、こどもの発達や困り感を伺い計画を作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・計画の作成や日々の支援では、こどもを主体にした話し合いを重ねている。	・専門的な視点から、より深めた支援を行っていく。(作業療法士、理学療法士、SST、PECS等)	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・日々の打ち合わせ、ケース会議、原案会議でこどもの姿や課題、目標等を話し合い共通理解のもと行われている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・ツールは用いていないが、医療や教育機関で行われている検査結果の情報共有し対応している。		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・こどもご家族の意向や困り感を踏まえて状況に合わせて、ねらいや支援内容を考慮している。	・家族支援、地域支援や地域連携にも更に力を入れていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・活動会議の中で話し合いを行い、決定している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・5領域に沿って週ごとに分け、色々な経験が出来るよう色々な方面から情報を取り入れている。	・学年、発達、苦手、得意等その子に合った活動内容を充実させていく。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・状況に応じて、個々に合った活動や支援の提供を心掛けている。		

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・毎朝の打ち合わせで確認し、支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・翌朝、全員で情報共有を行っている。 ・支援終了後に報告、連絡、相談を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・HUGのシステムを利用し記録全般を全員がいつでも確認できている。	
	23	定期的にもモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・保護者のご都合や相談に合わせて面談、相談を行い、計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	○		・自立支援と日常生活の充実のための活動、地域交流の機会の提供、余暇の提供を意識して取り組んでいるよう心掛けている。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・日常、選択肢や取り組みの中で、何がしたいか等自己決定できるよう心掛けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・児童発達支援管理責任者が参画している。	・今後定期的にケース会議を行い、情報共有と相互理解を図っていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・必要な医療との連携を行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・学校のコーディネーター、担当の先生等と情報共有を行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・支援会議に参画し、随時情報共有を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		・学校のコーディネーターの先生から助言と研修を受けている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	・日常的に交流や習い事等、他の子どもとの活動、関わりをしているため、あえてその機会は設けていない。	・今後、検討していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		・自立支援会議や研修会に今後参加予定。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・日常的にLINEやHUGの記録、送迎時や電話等でお子様についての情報共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		・今後、検討していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・利用契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・作成にあたり、配慮を必要とする点や支援にあたっての要望を確認している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		・計画内容を説明の際に保護者に確認し、同意をいただいている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・ご相談いただいた際には迅速に対応し、力になれるよう心掛けている。	・今後も保護者との信頼関係を築けるよう努めていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		○	・保護者のレクリエーション活動として研修会、もの作り、お菓子作り、料理等楽しめる場を作っている。また、きょうだいも参加できるイベントやまつりを開催し親同士の交流ができる環境を作っている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・相談をうけた際には、迅速に対応できるよう心掛けている。	・今後も保護者様との信頼関係が築けるよう努めていく。

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		・mico通信、HUGを用いて日々の様子や連絡事項を発信している。 ・玄関には活動の様子を掲示している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人名が入ったものは掲示しない。 ・名簿等はシュレッターにかける。 ・SNS等の顔出しに留意している。	・守秘義務と個人情報保護については職員研修で確認していく。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・視覚的に伝わる環境を整えている。	・今後、個別に伝わりやすいように配慮を行っていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・施設内見学等開かれた事業所を目指していく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・HPで公開している対策委員会は月ごとにスタッフ会議内で行っている。	・保護者の方には、再度HPに公開されていることを伝えていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・防災訓練では、非常食調理や「こんな時どうする？」を考え楽しみながら取り組んでいる。	・年2回以上の避難訓練を実施し保護者にも活動計画や通信等で分かりやすいように伝えていく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		・服薬、てんかん、アレルギーの情報や状況はアセスメント時に聞き取り職員で共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・随時、保護者に確認をし行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・安全計画に基づき、毎月会議を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・HPにマニュアルを載せ周知している。	・今後、分かりやすいように周知していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットの再発防止の為、随時検討を行っている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・虐待防止委員会を開催している。 定期的に職員研修として動画を視聴を取り入れている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・利用契約時に説明を行っている。	